

* 堂平観測所の宿泊簿収蔵

堂平観測所は1962年に発足しているはずであり、その発足当初から観測のために宿泊していたはずである。しかし、きちんとした宿泊施設が出来たのはしばらく後だったと思う。最初の頃はドームの1階で食事の用意がされており、2階が宿泊施設であったと記憶している。筆者は三鷹の卯酉儀と呼ばれた30cm反射望遠鏡で晴れてさえいればいろんなタイプの変光星の観測をしていた。30cm望遠鏡は小さな望遠鏡なので、暗いフェーズの変光星を観測する場合に堂平観測所の91cm望遠鏡を使っていた。月に2回、3夜観測時間をもらっていた。後で思い返してみると、なんと堂平観測所の91cm望遠鏡時間の2割を使っていたことになり驚いたのを覚えている。堂平観測所の宿泊簿というから筆者の名前もしばしば出てくると思ったが、この宿泊簿はNo.1(写真1)となっていて1989年1月から始まっている。筆者が堂平観測所に通ったのは1981年までであった。

1988年に東京天文台が国立天文台に改組されたのを機に、1989年1月から共同利用が始まり正式に宿泊簿が出来たのかもしれない。それ以前にも宿泊簿のようなものはあったはずなので別の形でどこかには保管されているのだと思う。

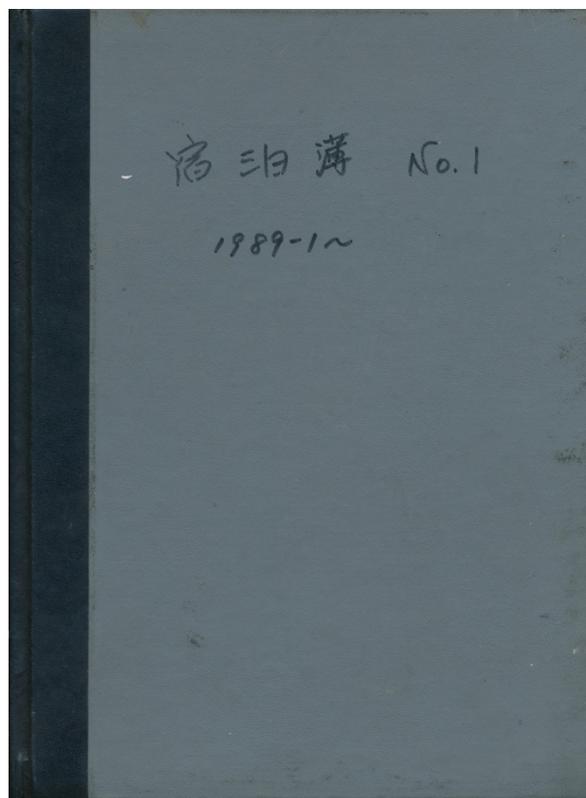


写真1 堂平観測所宿泊簿 No.1

この宿泊簿の最初の宿泊者は、元京都大学宇宙物理学教室の平田龍幸氏で、1989年1月8日から1月17日まで宿泊している。そして最後の宿泊者は、元東北大学理学部の関宗蔵氏で2000年3月29日から3月30日まで宿泊している。2000年3月31日を持って堂平観測所は閉所されたはずだが、その前日まで観測者が滞在していたことになる。

宿泊簿をめくってみると、懐かしい方々の名前が並んでいる。個人の名前を並べるのは時節柄不適當であるかもしれないので、大学名を拾っていくと、京都大学理学部、津田塾大学、国立天文台、東京学芸大学、中央大学理工学部、東京大学理学部天文学教育研究センター、東京大学理学部天文学教室、宮城県栗駒中学校（東北大学）、国立科学博物館、立教大学理学部物理、東北大学教養部、東北大学理学部天文学教室（名古屋大学理学部物理A研）、福島大学教育学部、東京大学宇宙線研究所、東京工業大学理学部物理、秋田大学教育学部、国立天文台野辺山、神戸大学理学部、高エネルギー研究所、北海道大学理学部、静岡大学工学部、岩手大学教育学部、浜松ホトニクス、群馬大学教育学部、放送大学、NHK、NHK放送技術研究所、名古屋大学理学部地震火山観測地域センター、東北大学理学部地震予知観測センター、放送大学群馬学習センターなどという大学等の名前が次々出てくる。これらの名前から、観測者が目に浮かぶように出てくる。筆者にとっては懐かしい帳簿である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp